



中野 正裕 准教授

【なかの まさひろ】

1969年生まれ。熊本県出身。2000年神戸商科大学経済学研究科博士後期課程修了。主要な研究テーマは経済変動の分析。とくに設備投資変動と貨幣・金融市場のつながりを中心に研究している。

[URL] <http://www1.tcu.ac.jp/home1/mnakano/index.html>

- 貨幣経済論
- 基礎マクロ経済学
- 応用マクロ経済学

はいかにして経済学徒となりしか

自身の研究テーマについて

20年とちょっと前、故郷九州を離れ浪人生活を送っていた私は、都内某予備校の経済学部入試向け小論文講座に潜り込み、聴講する機会を得ました。典型的な田舎者だった私は、若い人気講師によるスミスやケインズの経済学、戦後世界経済の洗練された概説に、いたく感銘を受けてしまいました。国立の某大学経済学部に入學し、3年次から経済学史のゼミに入ることを許可された私は、貨幣数量説とケインズの貨幣理論に関する（いま考えれば）かなりいい加減な卒論をまとめ、それでもなんとか卒業を許されました。この卒論作成の時に、たまたま大学の図書館で手にした『マネタリズム論争とマクロ経済分析』という書物に刺激され、それがきっかけで今度は神戸にある某県立大学の大学院に進学し、前掲書の著者である教授の下で貨幣と金融の理論を学ぶ機会を得ました。

麻雀やアルバイト、国内旅行にハマった時期もあり、優秀な学生とは程遠い私でしたが、入学前から理論や政策の歴史に関心があり、尊敬できる教授の下で自由に学ばせてもらったのは幸運でした。長引く日本経済の低迷と1990年代末の金融危機などを契機に、私の関心は理論・政策史の分析から、より現代的な金融と経済変動のマクロ分析に移っていきましたが、機会があればまた学生たちを誘って古典の良さにも触れたいと考えています。

担当科目について

基礎マクロ経済学、応用マクロ経済学、貨幣経済論、演習（基礎演習、演習Ⅰ・Ⅱ）を担当しています（内容についての詳細はシラバスを参照下さい）。ミクロ経済学とマクロ経済学は、学び始めた時点では、全く異なる学問領域のように感じられるかもしれませんが、しかし両者は、実は共通の土台の上に成り立っており、それがつかめてくると、経済理論の明快さが実感できると思います。とくに、ニュースや新聞記事に見る現実のマクロ経済の動きや経済政策への理解を深めたいほど、ミクロ経済学の併行学習が効果的です。

演習ではミクロ経済学、マクロ経済学の基礎から中級レベルの習得を共通の目標とし、ERE（経済学検定試験）受験にも取り組んでいます。個別研究では自由に研究テーマを選んでもらい、3年次から段階的に論文作成の指導を進めています（図書館に過去の卒業論文集が所蔵されています）。

過去、基礎演習ガイダンスの資料として、ゼミ生に行ったアンケート結果の中で一番印象に残った「中野ゼミをひとこと表すなら？」

……‘楽じゃないけど無難’
誰やねん、これ書いたヤツ！

ゼミ生のひとこと

